

## 2022年11月実績概要（メモ）

（2022.12.22）

内外需の低迷が続く中、エチレン及び各誘導品とも稼働が低下し、生産は前年を大きく下回る。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 470,700トン

前月比 + 0.1% (+ 600トン)  
 前年同月比 ▲13.6% (▲74,200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2 %	—
定修要因等	+ 6.5 %	—
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 3.2 %	▲ 13.6 %
生産増減率	+ 0.1 %	▲ 13.6 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月84.8% → 当月82.2% ← 前年同月95.1%

定修プラント：前月1社1プラント → 当月なし ← 前年同月なし

2022年1～11月累計生産量 4,930.1千トン 前年同期比 ▲14.4%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の減少と稼働率要因等からLDPE、HDPE、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EG、トルエン、キシレンなどの9品目がマイナス。PS、MMAモノマー、AN、BRなどの8品目は主に定修規模差からプラスとなった。

前年比は、稼働率要因を主因にLDPE、HDPE、PP、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなど15品目がマイナス。BRなどの2品目のみはプラスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の減少とともに稼働率要因等からLDPE、HDPEはマイナス。PP、PSは定修規模の縮小から若干のプラスとなった。

前年比は、稼働率要因を主因として、LDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂揃ってのマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

生活関連商品の相次ぐ値上げ等により消費鈍化が続く一方で、移動制限もなくなり、サービス関連分野では回復が見られるなど消費動向は、まだらな動きが見られている。他方、生産活動は、企業物価の上昇率も鈍化が見られはじめているが、生産のマインドとしては未だ弱気面が上回る状態が続いている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、一進一退が続いており、当月はLDPE、HDPE、PPは僅かながら増加となったが、PSは微減となった。

前年比は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。分野別の出荷状況は、フィルム等の包材関係、雑貨分野の減少幅が大きく、総じて出荷の低迷が続いている。

ハ) 輸出

前月比は、主要輸出先である中国では、ゼロコロナ政策の継続や米欧経済の減速が重なり、工業品生産の低下や最終需要の低迷が続いている。当月は前月にやや輸出が増加したLDPEがマイナスに転じたほか、HDPEはマイナスが継続、PPのみはプラスとなった。前年比は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスが続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対してLDPE、HDPE、PPは減少、PSは僅かながら増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、PPは低下、HDPEは前月並み、PSは上昇した。在庫水準としてはLDPE、HDPE、PSは高め、PPは高めの状況からやや反転が見られつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		10月末	11月末
LDPE	▲ 7,100	3.8	3.6
HDPE	▲ 1,400	4.4	4.4
P P	▲ 10,300	3.5	3.3
P S	+ 2,000	2.3	2.5

以上